

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

9 September

9日 大学院医歯薬学総合研究科の氏家良人教授が「救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を受賞



12日 タイの教育関係者らが教育学部附属学校園を視察



17日 カフエテラス「Junko Fukutake」ララの工事安全祈願祭を挙

20日 教育開発センターは、学修者の能動的な学修への参加を取り入れたアクティブ・ラーニングを推進するため「桃太郎フォーラムXVI」を開催

20日 ベトナムフエ大学で岡山大学フエ大学院特別コース第7期生入学式を挙

25日 ノーベル賞学者下村脩博士が来学

25日 定例記者発表を開催

30日 平成25年度秋季岡山大学学位記授与式を挙

10 October

1日 マレーシアアボラ大学の副学長らが森田学長を表敬訪問

1日 不妊治療に携わる生殖補助医療技術者胚培養士のキャリア養成、リカレント教育を実施する国際的教育研究拠点として生殖補助医療技術教育研究センターを設置

5日 厚生労働省の臨床研究中核病院に選定された岡山大学病院が臨床研究中核病院キックオフシンポジウムを開催

7日 セネガルの教育関係者が本学で理工数科目の授業研究を学ぶ研修を開始

8日 平成25年度岡山大学秋季入学式を挙

10

15日 「ケンブリッジニース特別講演」を開催



19日 「岡山大学 Alumni (全学同窓会)」を設立

19日 「ホームカミングデイ2013」を開催

21日 埋蔵文化財調査研究センターは、鹿田地区の発掘調査開始から30年を迎えたことを記念して岡山大学病院外来診療棟で同地区の出土品約30点のギャラリー展示を開催



23日 学会等が制定する賞を受賞した学生を顕彰し、勉学意欲をさらに高めるため岡山大学学生会賞等受賞者表彰10月表彰の授与式を挙行し、学生16人を表彰

23日 言語カフェ「Cafe」の来場者が1万人を突破したことを記念して「Cafe」来場者二万人おめでとうPartyを開催

23日 定例記者発表を開催

29日 米科学誌「Science」編集者がキャリア開発をテーマに講演

30日 文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム(O STREAM)に採択、中核拠点を金沢工業大学が担い、本学と独立行政法人物質・材料研究機構がサテライトとして分担

31日 大学院医歯薬学総合研究科の宮地弘幸教授、大学院環境生命科学研究科の木村吉伸教授、津田敏秀教授が、日本学術振興会より科研費の書面審査において「有意義な審査意見を付した審査委員」として表彰



11 November

1日 岡山大学知恵の見本市をこを開催



2日 4日 大学祭を津島地区と鹿田地区で開催

4日 17日 池田家文庫絵図展「開国と岡山藩」(附属図書館など主催)を岡山シテアミュージアムで開催

7日 森田学長と若手教員が教育・研究等の状況について意見交換を行う「学長と若手教員との対談」を開催

7日 「津島地区総合防災訓練及び防火訓練」を実施

8日 東京都中央区民カレッジに本学が連携講座を開設

10日 「Junko Fukutake Hall」のオープニング式典を開催

21日 岡山大学病院の胡重やす子副看護師長と大川義弘副診療放射線技師長が、平成25年度「医学教育等関係業務功労者文部科学大臣表彰」を受賞



22日 定例記者発表を開催

26日 岡山大学長の任期満了に伴う学長選考会議が開かれ、森田潔学長を再任した。任期は平成26年4月から3年間。

12 December

1日 本学での解剖実習や疾病の原因解明のため献体された方々を慰霊する解剖体慰霊祭を挙

4日 情報統括センターが運用する情報セキュリティマネジメントが国際規格「ISMS(SO27001)」認証を取得

7日 岡山大学病院で初めてとなる脳死心臓移植を実施

研究・臨床成果

■資源植物科学研究所の森泉助教と大学院環境生命科学研究所の村田芳行教授の研究グループは、乾燥を司る植物ホルモン「アブシシン酸」が気孔の開閉運動の抑制と閉鎖運動の促進を異なる分子機構によって制御していることを解明した。米国の植物科学雑誌「Plant Physiology」に掲載。(9月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の滝川正春教授らの研究グループは、CND2/TGFを軟骨特異的に過剰発現するトランスジェニックマウスを作成し、同マウスにおいて関節軟骨の老化が防止されていることを世界で初めて突き止めた。米国のオンライン科学雑誌「PLoS One」に掲載。(9月・定例記者発表)

■大学院環境生命科学研究所の山路代研究員と頼藤貴志准教授、大学院医歯薬学総合研究科の土居弘幸教授らの研究グループは、乳児期の授乳とその後の子どもの肥満との関連を検討し、生まれてから母乳で育った子どものほうが、粉ミルクだけで育った子どもよりも、太り過ぎや肥満になるリスクが低いことを明らかにした。アメリカ医師会の小児科領域雑誌「JAMA Pediatrics」に掲載。(9月・定例記者発表)

■地球物質科学研究センターの山崎大輔准教授とドイツ・バイロイト大学の研究グループは、地球の上部マントルを主に構成しているカンラン石中のケイ素の自己拡散の含水量依存性を調べた結果、この依存性は今まで考えられてきたよりも小さく、上部マントルの流動における水の効果は極めて小さいということが分かった。イギリスの総合科学雑誌「Nature」に掲載。(9月・臨時記者発表)

■大学院環境生命科学研究所の加藤謙司教授らの研究グループは、日本のオオムギ品種「早木曾2号」が有する早生性(早期に出穂・開花すること)の原因遺伝子がHb1h1cであることが世界で初めて明らかになった。米国の植物科学のトップジャーナル「Plant Physiology」に掲載。(10月・定例記者発表)

■岡山大学病院の喜多村真治講師、大学院医歯薬学総合研究科の植野博史教授らの研究グループは、腎不全代替療法の一つである腹膜透析に対して、腹膜上皮細胞を選別・細胞移植することにより細胞治療効果が異なることを発見した。国際医療工学系の科学雑誌「TISSUE ENGINEERING PART A」に掲載。(11月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の後藤秀徳助教、久保岡芳博教授らの研究グループは、数層グラフェンの電子の性質が奇数層と偶数層とで決定的に異なることを実験的に明らかにした。米国化学会発行「Nano Letters」に掲載。(11月・定例記者発表)

■大学院自然科学研究科の野坂俊夫准教授を含む国際共同研究グループは、ガラパゴス諸島西方において深海底の掘削を行い、太平洋の海洋地殻最下部を構成する岩石(未分化はんれい岩類)の連続試料を採取することに世界で初めて成功した。英科学誌「Nature」に掲載。(12月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の妹尾昌治教授らの研究グループは、マウスES細胞から作成したがん幹細胞を用いて、がん幹細胞から分化したがん細胞が、がん幹細胞自身の維持に必要であることを世界で初めて明らかにした。がん研究の国際科学雑誌「International Journal of Cancer」に掲載。(12月・臨時記者発表)